

平成29年10月18日
第2回高知市高齢者保健福祉
計画推進協議会
健康福祉部 健康福祉総務課

在宅療養に関する調査の結果について

在宅療養に関する調査の結果について

1 目的

医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができることを支援するために、高知市において在宅医療・介護連携推進事業を開始している。その中で、在宅での看取りも含めた在宅療養についての高齢者の意識を調査し、今後の事業の推進の検討材料とする。

2 調査方法

次期高齢者保健福祉計画策定に向けた下記関連調査において、在宅療養及び在宅看取りに関する調査を追加項目として実施。

- (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- (2) 在宅介護実態調査

【参考】各調査の詳細(1) 調査対象・調査方法

	調査対象	調査対象者数	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 【調査期間：H29年6月1日～7月5日】	○一般高齢者 ○要支援1・2	3,720人 ⇒有効回答数2,691人 【有効回答率：72.34%】	郵送配布及び郵送回収 によるアンケート調査
	65歳以上の市民で、圏域 区分で無作為に抽出した、 要介護認定を受けていな い方		
在宅介護実態調査 【調査期間：H29年4月4日～6月30日】	○要支援1・2 ○要介護1～5	346名 ⇒有効回答数346人 【有効回答率：100%】	認定調査員による聞き 取り調査
	高知市在住で、在宅で要 介護認定(要支援含む)の 更新時期である方		

【参考】各調査の詳細(2) 調査内容

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 【調査対象】一般高齢者, 要支援1・2		備考
<p>【在宅療養について】</p> <p>(1) 万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか。</p> <p>(2) (1)で2・3・4以外を回答された方にお聞きします。1・5～8と答えた理由を下記項目から選択ください(複数回答可)</p>	<p>(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院などの医療施設 2. 自宅 3. 子どもの家 4. 兄弟姉妹などの親族の家 5. 高齢者向けのケア付き住宅 6. 特別養護老人ホームなどの福祉施設 7. その他 8. わからない <p>(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護してくれる家族がいない 2. 家族へ負担をかけたくない 3. 在宅で最期を迎えることのイメージができない 4. 在宅でどのような医療サービス(医師や看護師の訪問等)が受けられるかわからない 5. 在宅でどのような介護サービス(ホームヘルパー等)が受けられるかわからない 6. その他 	<p>* 平成24年度国実施の「高齢者の健康に関する意識調査(平成24年9月実施)」及び「終末期医療に関する調査」を参考</p>
在宅介護実態調査 【調査対象】要支援1・2, 要介護1～5		備考
<p>将来、ご本人(認定調査対象者)は、寝たきりになった場合(もしくは今後)、どこで生活したいですか(複数回答可)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に介護してもらいながら、できる限り在宅で暮らしたい 2. 介護サービスを利用しながら、できる限り在宅で暮らしたい 3. 家族の介護と介護サービスの利用を組み合わせ、できる限り在宅で暮らしたい 4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設に入り、介護を受けたい 5. 有料老人ホームやケアハウスなど、高齢者向けのケア付き住宅に入りたい 6. 病院に入院して介護を受けたい 7. その他の場所(具体的に:) 8. 分からない 	<p>* 平成26年度高齢者福祉に関するアンケート調査の項目を同様に実施</p>

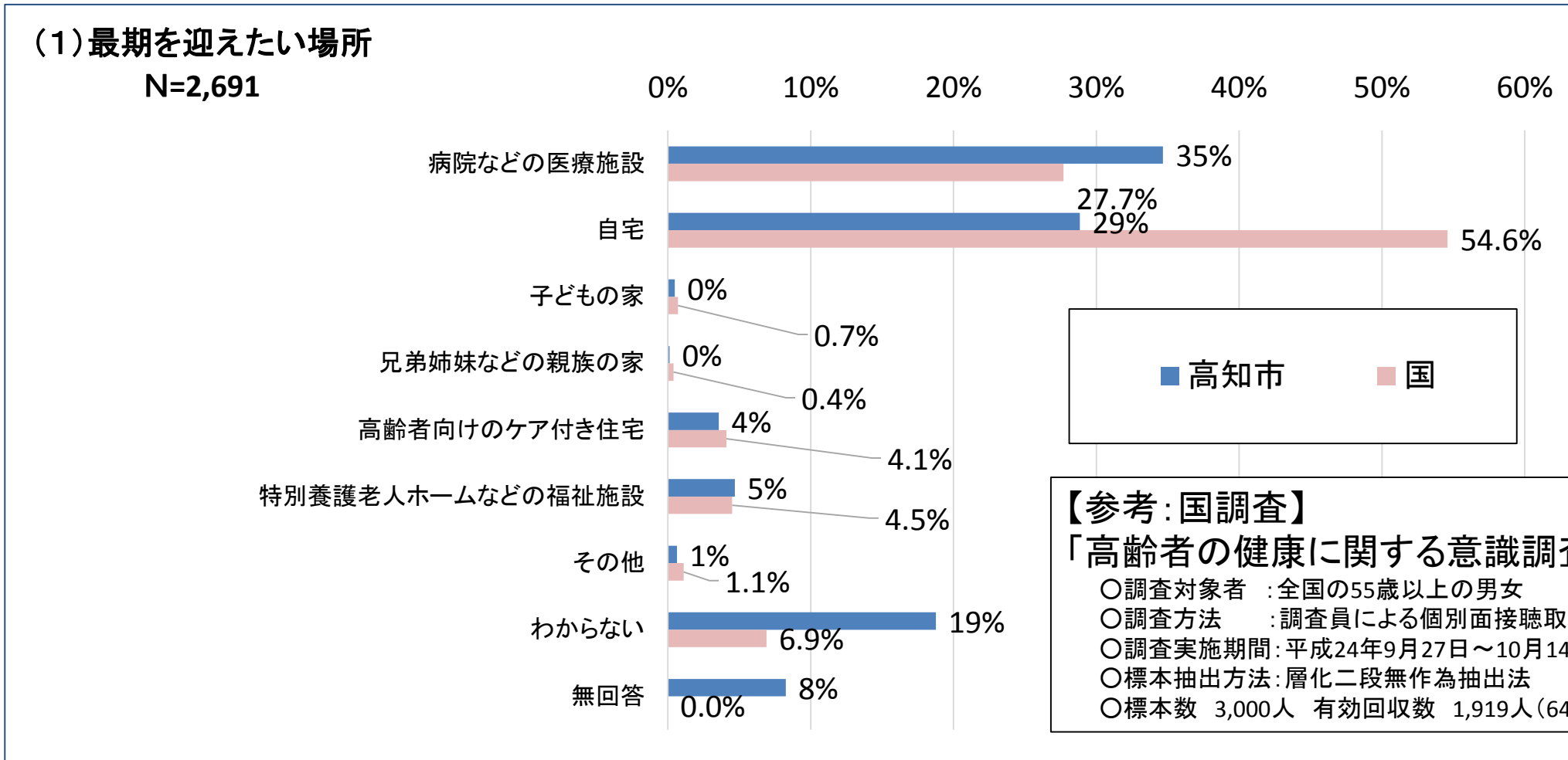
在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者，要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査)

「病院などの医療施設」を選択した割合は国調査(27.7%)と比較すると，高知市民の割合が35%と高かった。

「自宅」を選択した割合は国調査(54.6%)と比較すると，高知市民の割合が29%と低かった。

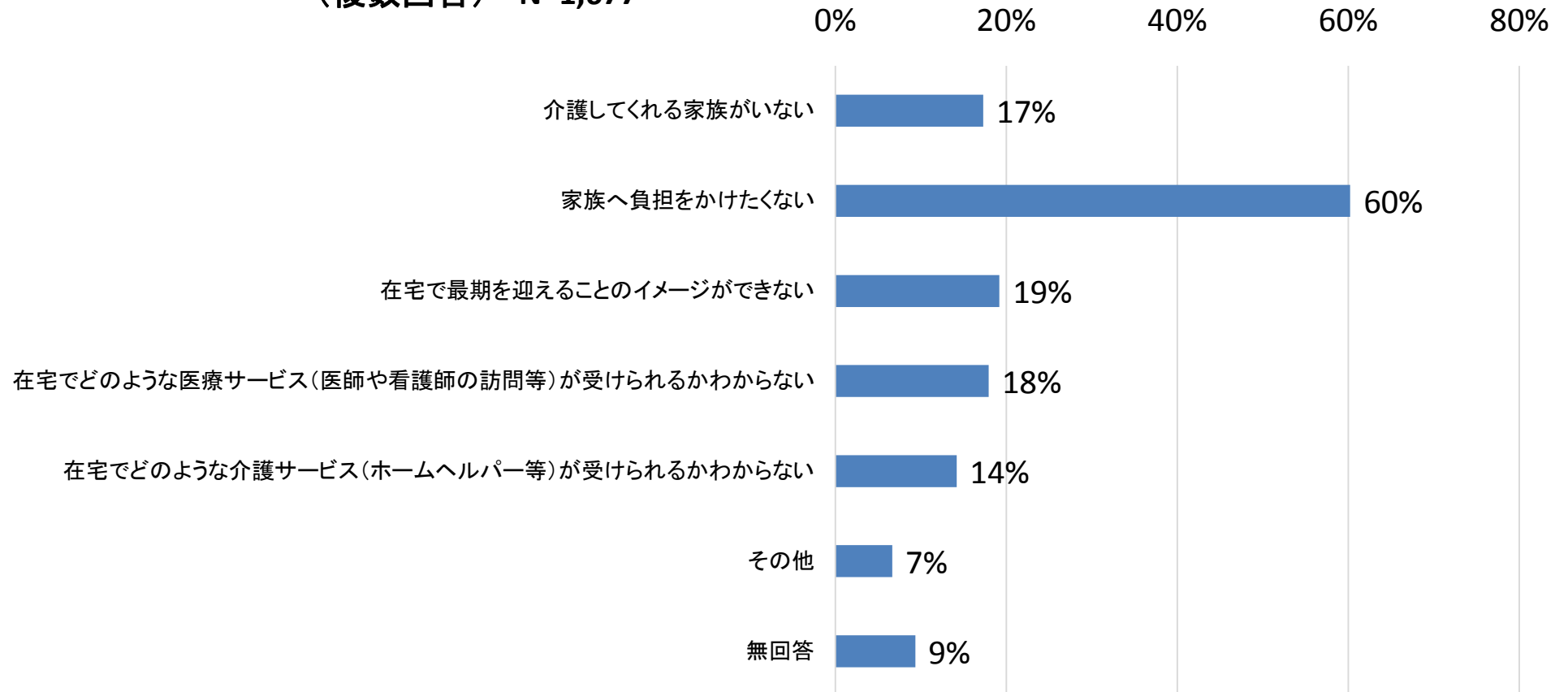
その他，「分からない」を選択した割合は国調査(6.9%)と比較すると，高知市民の割合が19%と高かった。



在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査)
一番多い回答は「家族へ負担をかけたくない(60%)」であった。

問1(2) 問1(1)で「自宅」「子どもの家」「兄弟姉妹などの親族の家」以外と答えた理由
(複数回答) N=1,677

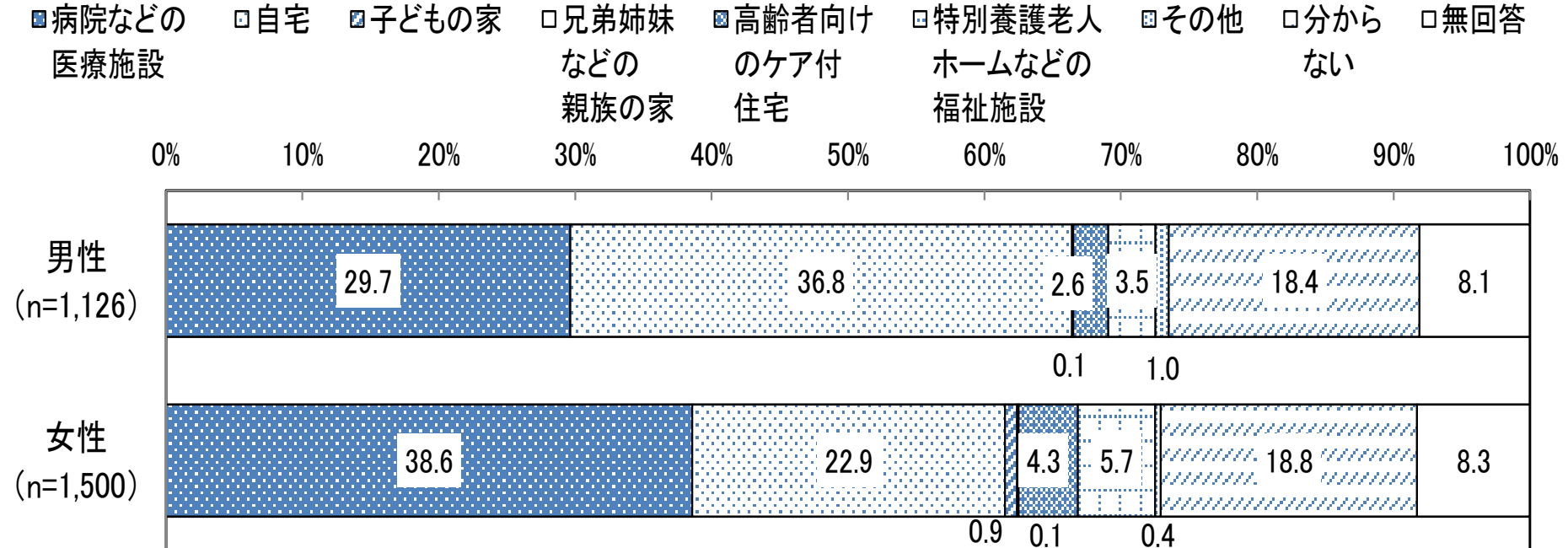


在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査) 【性別別「最期を迎えたい場所」】

<男性>は「自宅」が**36.8%**と最も高く、3割以上を占めている。次いで「病院などの医療施設」が29.7%、「分からない」が18.4%となっている。

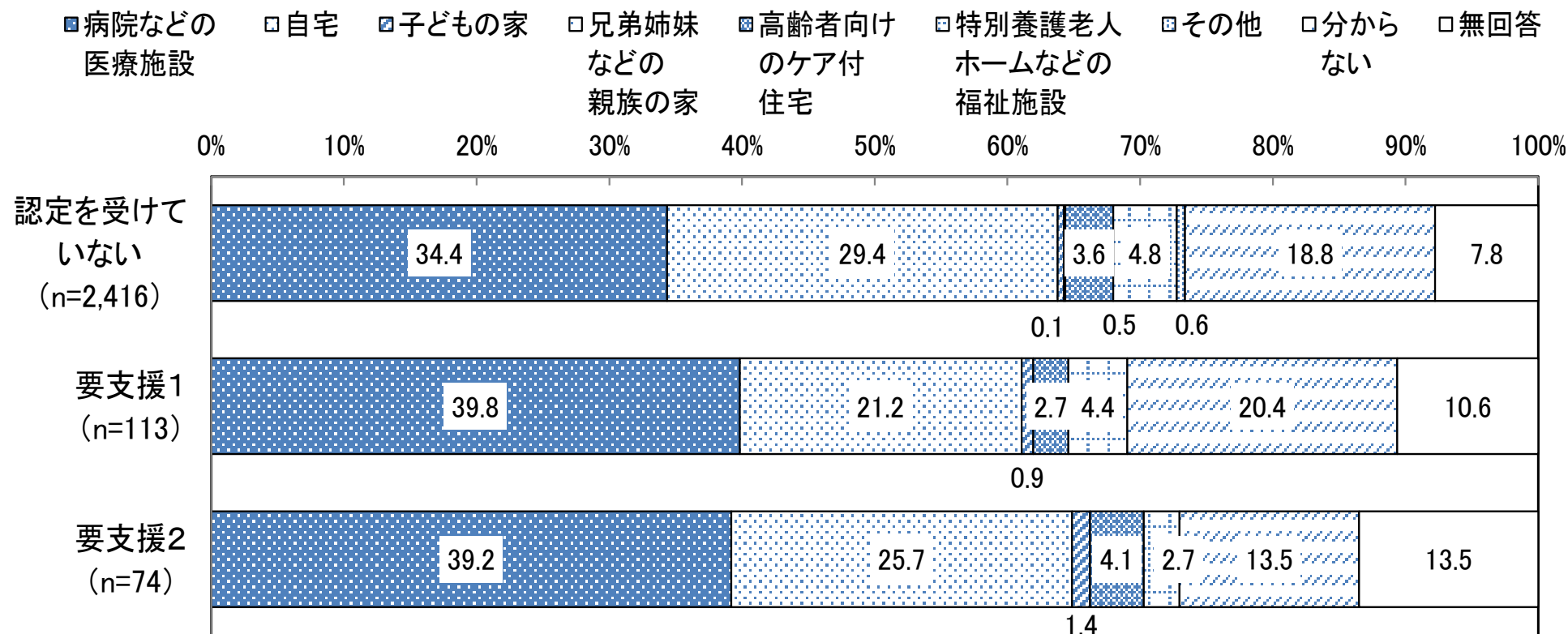
一方、<女性>は「病院などの医療施設」が**38.6%**と最も高く、3割以上を占め、次いで「自宅」が22.9%、「分からない」が18.8%となっている。



在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査) 【介護度別「最期を迎えたい場所」】

<認定を受けていない>、<要支援1>および<要支援2>のいずれも「**病院などの医療施設**」が最も高く、3割以上を占めている。

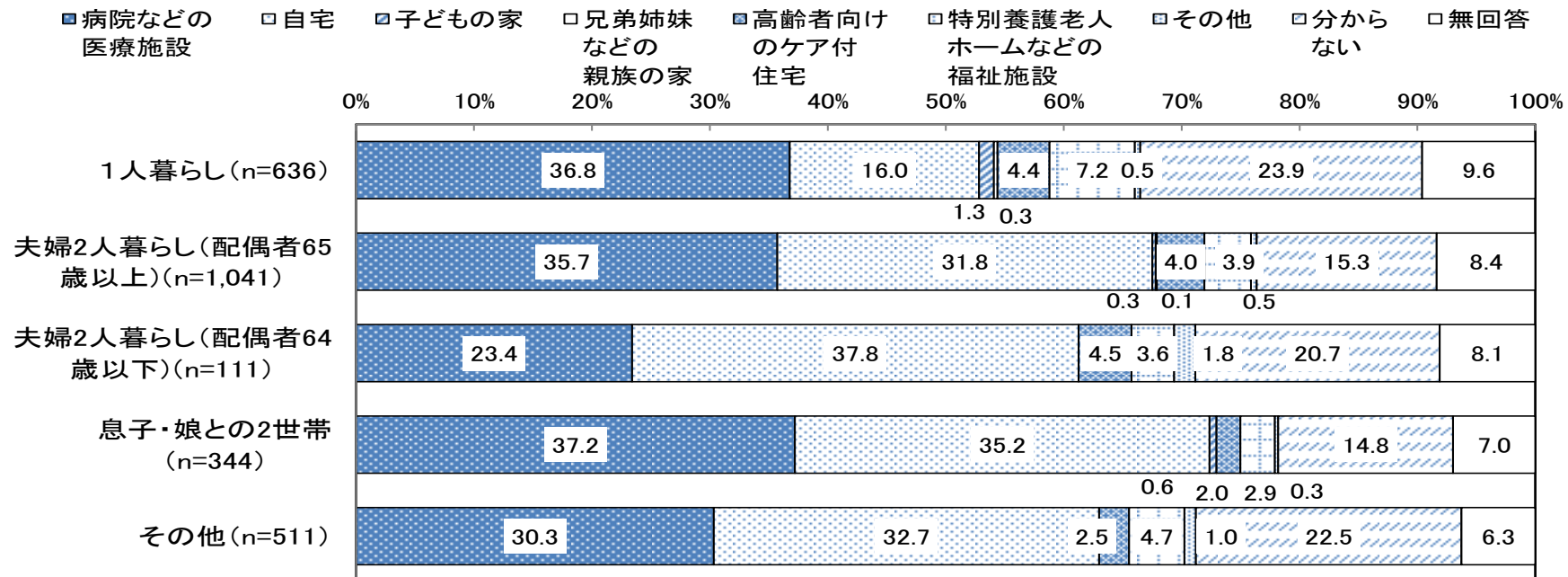


在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査) 【家族構成別「最期を迎えたい場所」】

<夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)>、<息子・娘との2世帯>および<その他>は「病院などの医療施設」と「自宅」がともに3割台となっていた。

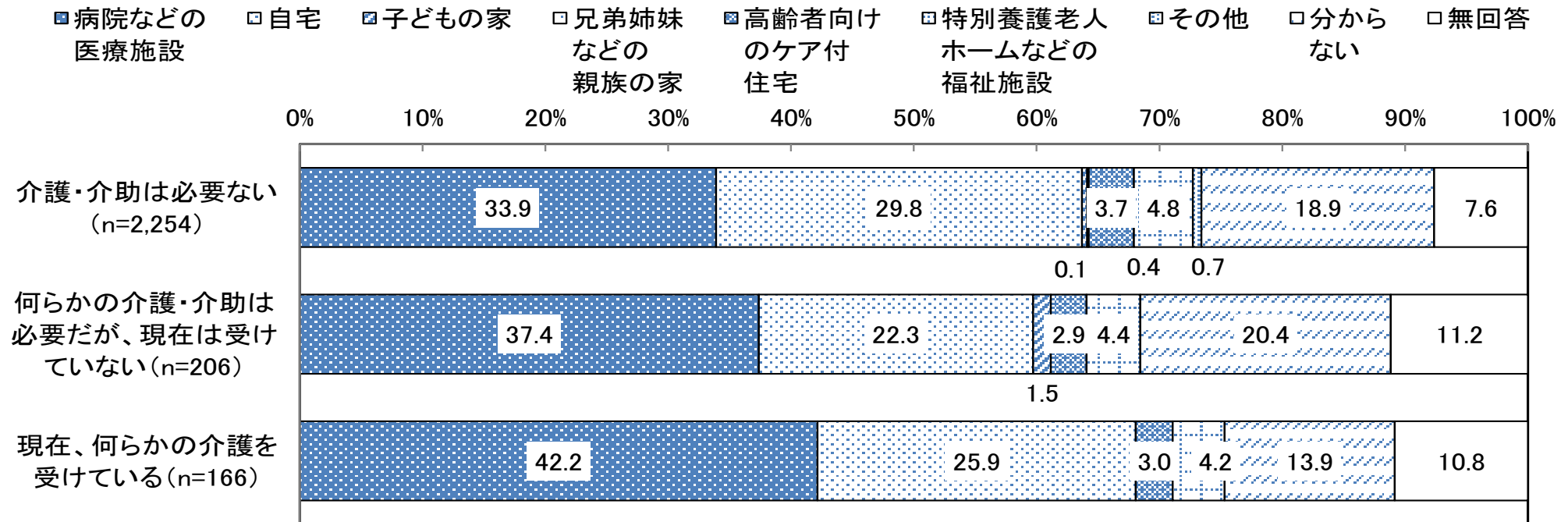
一方、<1人暮らし>は「病院などの医療施設」(36.8%)が最も高く、<夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)>は「自宅」(37.8%)が最も高く、それぞれ3割台となっていた。



在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査) 【介護・介助の必要度別「最期を迎えたい場所」】

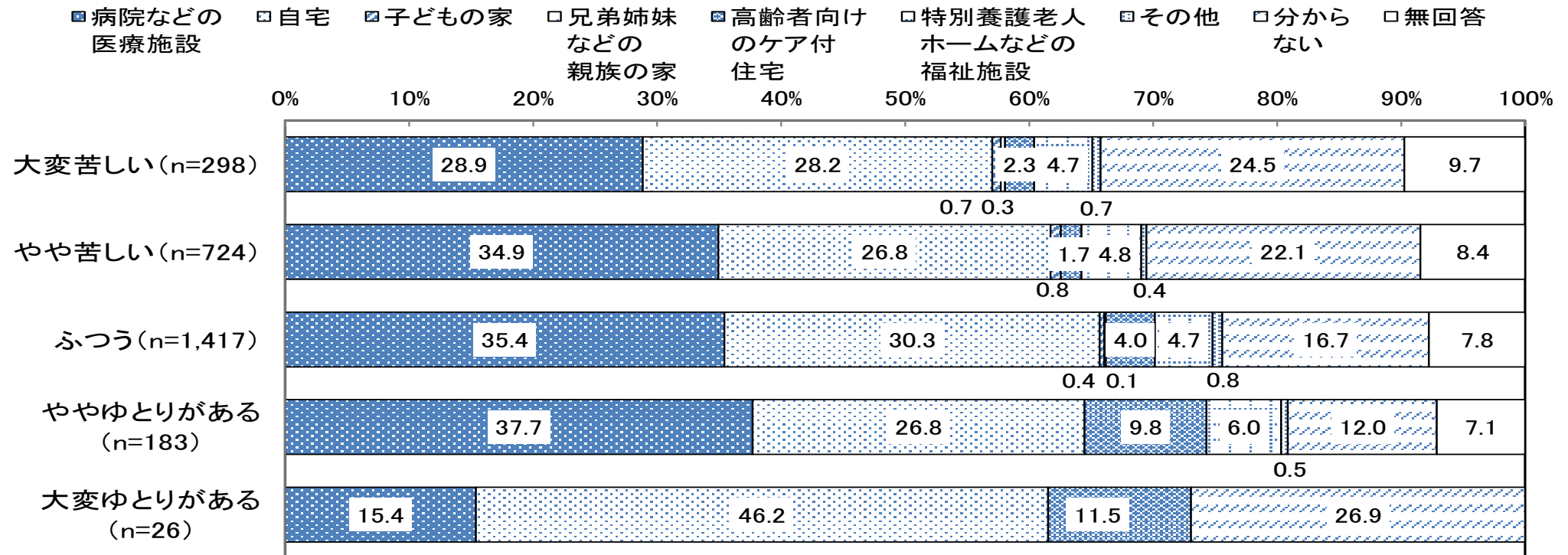
＜介護・介助は必要ない＞、＜何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない＞および＜現在、何らかの介護を受けている＞のいずれも「**病院などの医療施設**」が最も高い割合を占めているが、＜介護・介助は必要ない＞(33.9%)および＜何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない＞(37.4%)で3割台であるのに対し、**＜現在、何らかの介護を受けている＞(42.2%)では4割台**となっていた。



在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ①一般高齢者, 要支援1・2対象(介護予防・日常生活圏域調査) 【経済的状况別「最期を迎えたい場所」】

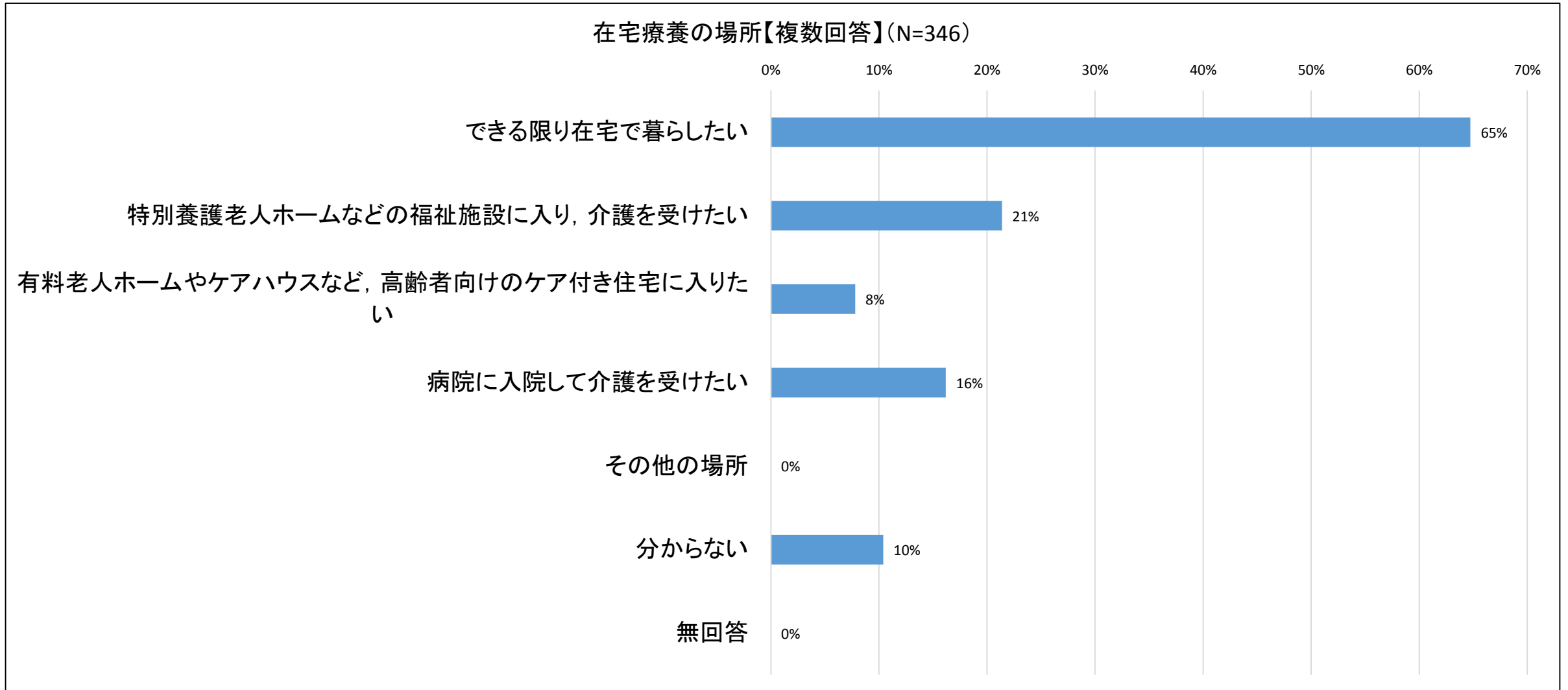
＜大変ゆとりがある＞のみ「自宅」(46.2%)が最も高く、4割以上を占めている。それ以外の経済状況ではいずれも＜病院などの医療施設＞が最も高く、＜大変苦しい＞(28.9%)で2割以上、＜やや苦しい＞(34.9%)、＜ふつう＞(35.4%)および＜ややゆとりがある＞(37.7%)でそれぞれ3割以上となっています。



在宅療養に関する調査の結果について

3 (2) 回答結果 ②要支援1・2, 要介護1～5対象(在宅介護実態調査)

在宅療養の場所として、「できる限り在宅で暮らしたい」を選択した割合は全体の65%と一番意向が多かった。



在宅療養に関する調査の結果について

4 考察

【一般高齢者及び要支援1・2を対象とする調査】

- ・「**最期を迎えたい場所**」として「**病院などの医療施設**」を選択した市民の割合(35%)が、全国調査と比較すると**7%多く**、逆に「**自宅**」を選択した市民の割合(27.7%)が全国調査と比較すると**26%少なかった**。調査結果から高知市においては、「最期を迎えたい場所」としての「自宅」の選択は全国に比べ少ない傾向がある。しかし、実際の在宅死の割合(平成27年)をみてみると、全国の在宅死の割合が12.7%に対し、高知市の在宅死の割合は13.3%と**全国と変わらず**、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるための在宅医療と介護の連携体制の構築が本市においても必要である。
- ・「**分からない**」と回答した市民の割合が**全国調査と比較しても9%も高く**、「最期を迎えたい場所」をイメージできるような啓発等も必要と思われる。
- ・「最期を迎えたい場所」として「自宅」「子どもの家」「兄弟姉妹などの親族の家」以外を選択した理由として「**家族へ負担をかけたくない(60%)**」が**一番多く**、回答者の家族への気兼ねが見受けられた。
- ・「最期を迎えたい場所」として「自宅」を選択する傾向が「**病院などの医療施設**」より**多かった**のが、性別では「**男性**」であり、家族構成別では「**夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)**」、経済的状況別では「**大変ゆとりがある**」状況の場合であった。

【要介護者等(要支援1・2含む)を対象とする調査】

- ・「**在宅療養の場所**」として「**病院**」を選択する意向は低い(16%)傾向があり、「**できる限り在宅で暮らしたい**」を選択する意向が多かった(65%)。